令和8年度 青少年育成作文 優秀賞

青少年育成推進連絡協議会では毎年、小中学生を対象に作文と標語を募集しています。今年度の優秀作品を紹介します。

わたしのゆめ

南関第一小学校　五年　甲斐　咲名

わたしのしょう来のゆめは、動物病院のかんごしになりたいです。なりたいと思った理由は、二つあります。

一つ目は、「動物を助けてあげたい」という思いがあったからです。私のおばあちゃんはねこをかっています。おばあちゃん家のねこはほとんどが「ほごねこ」です。みなさんは「ほごねこ」を知っていますか。ほごねこは、のらねこやいろいろなじじょうでかうことが出来なくなったりして「ほご」された「ねこ」のことです。だからおばあちゃん家のねこは、人をけいかいしたり、びっくりしてかくれたりすることが多いです。そんなねこたちを助けてくれるのが、動物病院のじゅういさんやかんごしさんでした。わたしは、動物病院について行ったことがあります。ねこたちはけいかいしていたけど、じゅういさんやかんごしさんは、ダニや虫をとり健康診断をしてくれていました。すごく頼りになってとてもかっこよかったです。

二つ目は、犬やねこをふくめた動物のことをもっと知りたいと思ったからです。動物を助けたいけど、たくさんの動物と出会いどうせしたらいいのか、しんさつしていくと、たくさんの病気に出会いどう治していけばいいのか悩むと思います。わたしはもっとくわしくなって、たくさんの動物を助けたいと思いました。私は動物が生まれたり死んだりすることを見たことがあります。新しい命が生まれるととてもうれしいし、亡くなってしまうととても悲しいです。また、一匹ずつ性格も違うので、それに合わせるのもむずかしいなと思いました。だけど、やってみたいとも思いました。

わたしは、動物が大好きです。だから、もっと動物のことを知ってたくさんの動物をすくっていきたいです。これがわたしのゆめです。

応援団長をやって気づいたこと

南関第二小学校　六年　山内　美結

私が今年の運動会で特にがんばりたいことは、応援団でした。なぜなら、今年応援団長になったからです。私はふだんあまり大きな声は出していませんが、けれども団長になったからには大きな声を出してがんばりたいと思い必死で練習をしました。練習では思うように大きな声が出なくて、とても大変でした。のどの使い方がうまくわからず、のどが痛くなってきつい時もありました。でも、あきらめようとは思いませんでした。それは、小学校最後の運動会だから精一杯やりきろうと思っていたからです。家族もみんな応援してくれましたし、運動会の前の日の土曜日、最後の練習がありました。私の家は学校からとても近いです。その日休みだったお母さんが、私の応援の声が聞こえてきたよ、とほめてくれました。とてもうれしくて、明日はもっとがんばろうと思いました。

とうとう、五月二十四日運動会本番の日をむかえました。

徒競走で二位になったことや技巧走でお母さんとの協力がうまくいかなかったこと、ダンスでオリジナルの振付がうまくできたことや段ボール運びリレーが楽しかったこと、トップ丸と一緒に写真を撮ったこと、たくさんの人と一緒に夢ほたる音頭をおどったことなどたくさんの思い出はあるけれど、やっぱり一番の思い出は応援団でした。

プログラムの一番最初が運動会応援でした。本番では、自分でも驚くくらいの大きな声が出て、声もよく通りました。演舞ではしっかり腰を落としました。三・三・一・三・七拍子では、足のあげ方など、かっこよく上手にできたので良かったです。他の団員の声もよく聞こえました。みんなでがんばって本当に良かったと思いました。小学校最後の運動会が、みんなのおかげでとっても楽しい運動会になりました。

今回応援団長になって気づいたことが二つあります。

一つ目は、無理だと思っていてもがんばり続ければできるということです。自分でも声が大きくなったと思うのでこれからは何事にもあきらめずに挑戦したいということです。クラスのスローガンにも挑戦という言葉があるので意識してがんばります。

二つ目は、協力することの大切さです。みんなで意見を出し合いながら、声を掛け合いながら練習したので、応援がうまくいきました。一人よりも心強いし、いろいろな意見があった方がいいと思います。お母さんとの技巧走のように、時にはうまくいかないことがあるかもしれないけど、相手意識をもってたくさんの人と協力していきます。

インタビューを通して学んだこと

南関第三小学校　六年　髙島　心菜

総合的な学習の時間に「地域の方々にインタビュー」という活動を行い、町議会議員の福山美佳さんにインタビューをしました。

町議会では二つの委員会で活動していて、調査したことなどを議会に伝えに行っているということや、南関町のみんなの声を聞き、思いをとどけることができるやりがいある仕事だということを知ることができました。

私は今まで町議会議員の仕事についてよく知りませんでしたが、インタビューすることで、町民の声を聞きながら私たちの生活をよりよいものにする大切な仕事だということが分かりました。

今まで私は、授業中の交流の時間や友達の発表のときなど話を聞いていない時がありました。今回のインタビューで学んだ福山さんの「声をきくことが大切」という話から、まず自分から話を聞き、友達の考えや思いなどを知り、自分の考えをしっかり持って交流を深めることで、友達の輪を深めていきたいと思いました。

総合的な学習の時間で学習したことで、私は自分自身が住んでいる南関町についてもっと知りたいと思いました。どんな職業の方がどんな仕事をして町の人々のために役立っているのかを調べたいと思いました。そして、これから町のために働いているすべての方々に感謝しながら生活していきたいです。

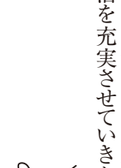
夢に向かって

南関第四小学校　六年　萩尾　悠乃

私は、最近がんばっていることがあります。それは、運動です。私の将来の夢は、体育の先生です。この夢にした理由は、私は週に四回くらい運動をしています。その一つは、陸上です。陸上を始めたきっかけは、私が小学四年生の時に友達のお母さんから「毎週月曜日と木曜日に陸上があるんだけど、やってみない。」とさそわれて陸上に行ってみると、女の子から「よろしくね。」と言ってもらえてうれしかったです。そして、初めての陸上が始まりました。最初はきんちょうしていました。一日に2キロメートル走っていてびっくりしました。私はこんなに走れるかなと思いました。走ってみるととてもみんなが速くて、追いつくことができませんでした。それどころか、1キロメートルを走ることもできませんでした。走り終わった後は、きつくて泣いてしまう時がありました。それでみんなにめいわくをかけてしまうこともありました。

小学五年生になって、少しずつだけどみんなに追いつけるようになりました。泣いてしまうことも少しずつへっていきました。そして陸上の大会にも出ました。１００メートルと８００メートルに出ました。結果は自分にとってすごいと思いました。陸上の先生から「ジャベリックボールというのにでてみない。」と言われました。ジャベリックボールとは、前にスポンジと後ろにプラスチックがある魚みたいな形のものを投げる競技です。やってみると15メートルぐらいしか飛びませんでした。そこで、少しずつお父さんと練習しました。すると25メートル以上飛ばすことができました。ジャベリックボールの大会が始まりました。隣の席にいる人は知らない人でした。でも勇気を出して声をかけてみました。すると三人の人と仲良くなりました。コツを教えてもらうこともありました。表彰台に乗ることができるのは八人までで、出場者は全員で七人でした。表彰台に乗ることは出来ますが、五位以上になろうという目標にしました。すると27メートルという新記録が出て三位になることができました。とてもうれしかったです。六年生でジャベリックボールを30メートル飛ばせるようになりたいです。五年生で初めて町の駅伝にも出ることができました。陸上の子のペースについて走れるようになりたいです。

私の将来の夢は体育の先生です。もっとその夢に近づくことができるように、今よりももっと何でも出来るようになりたいです。



友達と過ごす中で…

南関中学校　三年　平山　希心

僕は、友達と関わる難しさを痛感したことがある。

僕は、「友達」は必ず笑いあって過ごして仲のいいものであるべきという思いがあり、それを実現したいと思い続けてきた。だが、その思いを実現させるのは、まるで学校のテストのように、とても努力が必要で全教科満点は無理だと思える。

小学校の頃、僕は友達との距離感が分からなかった。それは入学後知らない人たちと一緒に過ごすことになったというのもあるが、一番は親しくしたいという気持ちが大きすぎたのが原因だろう。親しくしたくて近づいていくと、近すぎることもあり、いやな顔をされることもあった。しかし、距離が遠いと友達として仲良くなることができないかもしれないという気持ちがあった。僕はどん友達との距離感が分からなくなっていってしまった。

そして、中学校に入学して友達とのすれ違いがあった。それは、中学校初めての体育大会のことだった。体育委員だった僕は競技の練習をするために、みんなの並ぶように呼び掛けた。しかし、なかなか話を聞いてくれず、大きな声で怒鳴ってしまった。すると「うるさい。」「そんなに言わなくてもこえてるよ。」などという声が聞こえてきて、それに対してその場で叫びそうになった。友達として弱いところをみんなに見せたくなかったので、その場を何とかしのぎ、無事に体育祭を成功させることができた。

だが、この時から中学校でも僕と友達の関係は行き詰っていたのかもしれない。「友達は僕のことをどう思っているのだろう。」僕はこのことばかり考えるようになった。

次に事が起きたのは南関中文化の日のことだった。文化の日では合唱コンクールがあって、そのために朝や昼休みにみんなで練習をしていた。その時もまた「する意味なんてないだろう。」や「そんな本気になる意味なんてない。」というマイナスな言葉が聞こえてきた。それを聞いた僕は自分や他のリーダーの努力が踏みにじられている気がして、思わず目からたくさんの涙がこぼれてきた。そのようなことがあってから、学校生活が本気で楽しいと思うことができなくなっていった。友達との意見が合わないことは、これからの学校生活でも多々あるだろう、それに僕は耐えられる気がしなかった。

しかし、これらの出来事から、友達とのギクシャクした関係を変えたいと強く思い僕は友達についてもう一度真剣に考えてみた。

まず、友達との関係についてだ。友達の中でもいろいろな距離を望んでいる人がいると思う。とても仲が良く距離感の近い友達もいれば、人と話すのが苦手、もっと自分のしたいことがある、距離感を保った方が接しやすいという友達もいる。僕は自分が接しやすい接し方を友達に押し付けていてしまっていたことをそこで自覚した。だから、いままで友達とのトラブルが多かったのだと思えるようになった。

次に、本当の友達についてだ。僕の考えは全員が仲の良く笑いあうというものだったが、学校生活を振り返ってみると笑いあう姿だけではなく喧嘩したり、言いあったりする姿も多くあった。そして、失敗があることで、今まで知らなかった友達のことを知れ、分かり合える本当の友達になれると思う。

このようなことを考え、二つのことを心に決めた。まず、友達との考えを尊重することだ。なぜなら、自分のペースで相手に接すると相手にも自分のペースがあるわけだから、ペースが噛み合わず相手も自分も嫌な気持になるかもしれない。

そして、友達関係は失敗しながら成長していくということだ。友達との学校生活では喧嘩や言い合いが多発する場面が多々あった。そんな場面では相手への不満や文句が出てしまうのだが、そんなことがあってこそ相手の気持ちや意見を知ることができると僕は思った。それなら、友達と喧嘩することは悪い事ではなく、さらに友達との仲を深める一歩だと考え過ごしていきたい。

これからの学校生活でも、友達とトラブルになることが多くあると思う。だからこそ、友達一人一人の意見を尊重してこれからの学校生活を充実させていきたい。